

第 67 回 株式会社 USEN 放送番組審議会 議事録

■開催日時

2021 年1月 28 日(木) 16:00～

■開催場所

東京都渋谷区神泉町 9-8 USEN 渋谷ビル

渋谷ビルミーティングルームをベースとして、委員および USEN 側の一部がテレビ会議形式で出席。

■出席者

湯川 れい子 委員長

富澤 一誠 委員

品田 英雄 委員

和合 治久 委員

長谷川 演 委員

■局側出席者

代表取締役社長 田村 公正

取締役副社長 大田 安彦

コンテンツプロデュース統括部長 山下 光儀

コンテンツプロデュース統括部編成部長 松本 茂雄

コンテンツプロデュース統括部制作部長 村田 徹

コンテンツプロデュース統括部制作部制作1課長 小島 万奈

コンテンツプロデュース統括部制作部制作1課 本多 義明

【番組審議会事務局:森角、林、大園】

議事内容

1. 会社動向、放送事業動向についての報告

(1)第 57 期第 1 四半期経営成績について

売上高は、店舗サービスが前期 1Q は増税前需要等が有り下振れ減収し、エネルギーは引続きコロナ影響での施設稼働減を受け減収した。営業利益/経常利益/当期純利益は、粗利達成/販管費未消化により増益した。

(2) 新商品“ロボ接客”「Servi(サービィ)」販売開始について

ソフトバンクロボティクスとの配膳・運搬ロボ「Servi(サービィ)」の取扱いを、USEN やグループ各社で開始した。レイズインターナショナル様での導入を皮切りに早期開拓を目指す。

(3)日本音楽知覚認知学会 学会賞受賞について

昭和女子大学と共同研究を実施した「店内 BGM のテンポが消費者の購買行動に及ぼす影響」の研究成果が日本音楽知覚認知学会の学会賞(ポスター発表選奨)を受賞した。

(4) 「2020 年間 USEN HIT ランキング」発表について

12 月 4 日、各ジャンル主要チャンネルのオンエア実績や、お客様からのリクエストを基に集計した「2020 年間 USEN HIT ランキング」(8 部門)を発表し、USEN-NEXT グループ本社にて表彰イベントを開催した。

(5) 追悼番組の配信について

12 月 29 日～1 月 29 日まで、12 月 20 日に逝去された、作詞作曲家の中村泰士氏(享年 81)を偲んで SMART USEN にて「中村泰士 追悼特集」を配信した。また、12 月 29 日～1 月 29 日まで、12 月 23 日に逝去された、なかにし礼氏(享年 82)を偲んで SMART USEN にて「なかにし礼 追悼特集」を配信した。

2. 審議課題

「既存番組」+「時間帯」+「演出」

3. 【対象番組】

■C-03 SOFT ROCK

■C-06 Colorful Pop Styling

4. 審議

【放送局】

第 57 期は「既存番組」+「時間帯」+「演出」を審議テーマとしている。今回は昼帯での利用を想定し、「C-03 SOFT ROCK」、「C-06 Colorful Pop Styling」の 2 番組を審議頂きたい。

【審議委員】

いつもは番組資料を見てから番組サンプルを聴くが、今回は 2 番組とも番組資料を見ずに単に BGM として移動中等に何度も聴いた。

番組名もサンプルを聴き終わってから見たが、「C-03 SOFT ROCK」は私がイメージするロックとは違っていたので、番組名に「ROCK」が入っているのは意外だった。私は、普段ロックをほとんど聴かないが「C-03 SOFT ROCK」は聴きやすかった。もう一方の「C-06 Colorful Pop Styling」は非常に良い、面白い番組名だと思う。確かに選曲内容からコンセプトであるカラフルさを感じられたし、番組名からポップで明るく、カジュアルな楽曲が流れる番組である事が想像出来る。「Styling」というワードも、ポップさや明るさ、カジュアルさといった「スタイル」を表現したい店のオーナーにとってこの番組を聴ききっかけになるだろう。ただ、単に聴くだけでは 2 番組には大きな違いは感じられず、番組資料を見て初めて 2 番組の選曲の違いが分かった。曲調やテンポに多少の違いは有っても、2 番組をシャッフルして流しても違和感は無いらる。

次に、想定業種についてだが「C-03 SOFT ROCK」は「飲食系(カフェ)」、「C-06 Colorful Pop Styling」は「小売、理美容」とされている。

まず、「C-03 SOFT ROCK」は「SOFT ROCK」という言葉自体の意味が非常に広く、日本人がイメージするロックとは違わ為、飲食店にロックは合わないと思われてしまい、そもそも聴かれづらいのではないかと思う。海外では「サンシャイン・ポ

ップ」とも呼ばれるとの事なので、そちらの方が明るくカジュアルな番組である事がイメージ出来て聴かれやすいだろう。選曲内容だが、テンポの速い曲が多いと感じた。お客様にとってランチタイムはゆっくり落ち着きたいひと休みの時間であるのに、音楽の持つ力は大きいのでテンポの速い曲が流れていると「早く食べて、早く出て行かなければ」と思って慌ただしさを感じてしまう。回転率を上げたい店にとっては丁度良いが、最近はそのような店も減っているように思うので、お客様が落ち着きや癒しを求めて訪れるような飲食店(カフェ)より小売店の方が向いているのではないかと。

「C-06 Colorful Pop Styling」は、先程も言ったように非常に良い番組名で選曲内容にも非常に合っているが、小売、理美容にはあまり合っていないように思う。小売でもスーパーやアメリカンカジュアルなファストファッションの広い店舗には合うが、それ以外は合うところが思い付かない。理美容はそもそも理容と美容が大きく違うので、一緒くたにするのは乱暴だろう。まず、理容とは床屋の事で今時は若い人向けの床屋も有るかもしれないが、想定されている客層が実際の客層より大分若いように思う。美容はそう言った点は問題が無いので想定業種とするのは良いが、美容院の中でも美容師との会話が多い所ではなくお客様が本を読んだりして会話をせず過ごしたい所では、やはり静かでゆったりとした BGM の方が合うのではないかとと思う。

また、「C-06 Colorful Pop Styling」では、選曲時に似たようなテンションの曲ばかりでは疲れてしまうので、幅を持たせるよう留意しているとの事だが、似たようなテンションの曲ばかりの方が良いのではないかと今回改めて思った。BGM は空間演出の大事なツールである。USEN のディレクターはその音楽を感じさせる事無く豊かさや自然さ、空気をコントロールするBGMの職人として徹する一方で、スパイスになるような一捻りした選曲をしたいのだからと思うが、そのスパイスがプラスになるのかマイナスになるのかは店次第である為、加減が非常に難しい。この番組が何の為に有るのかという事を、より深く考える必要が有るだろう。

【放送局】

BGM としてどういうものがベストではなくベターなのか、というのは我々にとって非常に悩み所だ。あくまで BGM として存在感を消す方が良いのであれば緩急を付けない選曲も出来るが、それであれば打ち込みで曲を作れば良い。そうではなく、過去に発売された曲や聴き馴染みの有る曲で BGM を表現する為にはどうすれば良いのかというのが問題で、「C-06 Colorful Pop Styling」はコンセプト上、似たようなテンションの曲ばかりでは疲れてしまうので、選曲に幅を持たせた方が良いと判断した。恐らく正解は無いと思うが番組毎に試行錯誤を繰り返している最中なので、この点に関してご意見やご感想を頂けるのは大変有難い。

【審議委員】

SOFT ROCK は 1964 年から 1969 年位までの非常に限られた年代の音楽で、SOFT ROCK とジャンル分けされてヒットさせたアーティスト達が居たのだが、「C-03 SOFT ROCK」はそういったアーティストを中心に非常に興味深い選曲をしているのでまさに職人技だと感心して聴いた。しかし、「SOFT ROCK」は日本だけでの呼ばれ方で実際はロックではない。やはり番組名に「ROCK」と入っていると敬遠してしまう人も居ると思うので、先程の番組名へのアイデアは非常に貴重なご意見だったように思う。

【審議委員】

私は番組資料を読み込んでからサンプルを聴いた。

「C-03 SOFT ROCK」は限られた年代の中で生まれた音楽から、しかも私もほとんど知らない曲で、放送に耐え得る曲数で良い選曲がされていて、ディレクターのセンスと職人技を感じた。私が音楽を聴き始めた頃、ラジオでは「C-03 SOFT

ROCK」のような音楽が沢山流れていたが、当時も SOFT ROCK はロックではないと思っていた。私は、ロックはポップスとは異なり、メッセージ性やアーティストの意思が有る音楽であると思っており、今回の選曲の中にもロックではないように思う曲も含まれていたが面白い選曲であり、昼帯にも合っていた。人間的でアナログである為、懐かしさやあたたかみを感じさせる統一感の有る選曲で、演出ワードの「明るい」、「ぬくもり」も良く表れているように思う。ただ、1960年代～1970年代前後の音楽は今の音楽と比べると毒が無く、ずっと聴いていると飽きて来る。また、今となっては非日常的な音楽である為、カフェのような特別な空間を作るのには良いが、やはり昔の音楽は今の音楽とは違うという事を踏まえて選曲した方が良いと思う。番組名に関して言うと、折角良い番組なのに「SOFT ROCK」という番組名では勿体無い。世代や趣味が違ふが故に「SOFT ROCK」という言葉を知らない人達が聴ききっかけになるような言葉が番組名に入ると良いと思う。

「C-06 Colorful Pop Styling」は曲だけでなくアーティストもほとんど知らなかった為、1曲1曲アーティストの事も調べながら聴いたのだが、現代では世界中で同じようなトーンで楽曲制作が出来るのだという発見が有ったと同時にディレクターのテクニックを感じた。明るくて楽しくて気分が上がるという点で昼帯に合っていて、演出ワードの「明るい」、「アクティブ」も良く表れていた。ただ、ずっとこの番組を聴いていると毒が無く、物足りなさを感じた。音楽は次第に進歩しており、不協和音を入れたりビートを変えたりするようになってきているが、「C-06 Colorful Pop Styling」ではそういう曲は避けて選曲されている。つまり、先程のディレクターはBGMの職人に徹すべきか否かという問題で言うとディレクターはBGMの職人に徹して選曲している為、非常に統一感の有る番組になっているが、現代的なモード感やスタイリッシュさが足りず音楽好きとしてはずっと聴いているとつい気になるような良い曲が少なく感じた。やはりディレクターの一捻りしたエッジの有る選曲をし、単なる BGM ではない番組にした方が良いのではないかと思う。また、ジャズやソウルミュージック好きの私としてはブラックミュージック的なビートとグルーブをここまで排した選曲をして良いのかとも思う。担当ディレクターは良い選曲が出来るディレクターだと思うので音楽好きを唸らせる選曲をして欲しい所だが、「C-06 Colorful Pop Styling」は BGM としては非常に良い番組だ。

【審議委員】

「C-03 SOFT ROCK」の番組名について、「SOFT ROCK」という言葉は私も初めて聞いたので最初は少し戸惑い、サンプルも2曲位しか知らなかった。時間帯や演出ワード、想定業種の観点に加え、お洒落でサニーサイドな印象の曲というコンセプトの元、美しいハーモニーやスウィートな歌声が有るか、その結果心にあたたかさが残るか、そして全体的に聴いた後心が明るくなったか、といった観点で聴いた。

まず、昼帯(ランチタイム)に提案する番組としては良かったと思う。ただ、想定業種はもっと絞った方が選曲する際もターゲットが絞れて良いのではないか。ランチを食べると言っても、洋食と和食、中華料理の店では雰囲気は全く異なり、「C-03 SOFT ROCK」は洋食のランチタイムに向いており、和食や中華料理には向かないと思った。また、音楽療法的にランチタイムに何かを聴く、或いは仕事の後である事を考えた時、消化酵素の分泌を高めたり、午前中の疲れを癒したり不快なストレスを解消したり、またその事によって午後の仕事や他の業務の生産性が上がるような、心が明るく前向きになる曲が良く、それらの要素も入れながらそれぞれの飲食ジャンルに向けた曲を選んだら良いと思う。しかし、サンプルの中には他の曲と比べるとピッチが低く、明るさやスウィートさのバランスが良くないと感じる曲も有った。人間には喜怒哀楽が有り、喜ぶ時や嬉しい時は高音を使い、悲しい時や怒っている時、苦しい時は低音を使い、それはどのような生き物でも同じだ。その為、音楽療法的に明るい雰囲気を出す時には高い音を使うのだが、BGM においても適切なピッチを設定して選曲したら良いと思う。

「C-06 Colorful Pop Styling」も「C-03 SOFT ROCK」同様、時間帯や演出ワード、想定業種の観点に加え、テンポがミドル～アップテンポで軽快であるか、アクティブな明るさを感じられるか、心が陽気になるか、メリハリが効いてカラフルな印

象を受けるか、といった観点で聴いた。全体的には女性ヴォーカルが多いように感じたが、別の委員からも指摘があったようにモノトーンで、聴いているうちに眠くなり、飽きが来る選曲だったので、その点は留意して欲しい。

昼帯(ピーク前)の小売、理美容での利用を想定しているとの事だが、小売と理美容では全く業種が異なる。「C-06 Colorful Pop Styling」自体は確かに全体的に空間を明るく出来ると思う。しかし、小売と理美容ではお店が持っている雰囲気異なり、扱う物も「モノ」と「ヒト」で異なるのでお客様の満足度というのはまるで異なる。更には小売りの中でも書籍や飲食物、文具、衣服、医薬品等の様々な分類が有る。日本音楽知覚認知学会において「店内 BGM のテンポがコンビニでの購買行動に及ぼす影響」という研究で学会賞を受賞したとの事だが、そのような研究を加味しながらそれぞれの業種に対してもっとターゲットを絞って選曲したら良いと思う。一方、理美容は人対人であり、スタッフにとって良い曲なのか、或いはお客様にとって良い曲なのかということも違ってくると思っている。つまり、スタッフ側としては、落ち着いて事故の無いように丁寧に施術して無事に仕上げる事が大切であり、お客様側としては穏やかな気持ちで施術を受けられる事が大切である為、同じ空間の中でもターゲットによって良い曲が違うという事だ。どちらかにとって良い曲なのか、両方にとって良い曲なのか、そのような事も吟味しながら選曲すると良いと思う。

【審議委員】

「C-03 SOFT ROCK」、「C-06 Colorful Pop Styling」の想定業種であるカフェや小売、理美容には私も行くが、今考えてみると店内で音楽が鳴っていたか分からない。カフェでも美容院でも音楽は鳴っていると思う。例えば、私が通っている美容店のオーナーはロックが好きなのでロックを流している筈で、髪を切ってもらっている時に話もするが音楽は全然聴こえていない。それは恐らく私が普段音楽をよく聴いているので、音楽が流れていても自然とシャットアウトしているからではないかと思う。人それぞれだが、他にもこのようなケースは有ると思う。

「C-03 SOFT ROCK」は 1960 年代後半～1970 年代前半の音楽だが、この番組名を見た時に久しぶりに「SOFT ROCK」という音楽を思い出した。サンプルの曲はほとんど知らなかったが、何回も聴いているうちに良い曲だと感じる曲も有り、担当ディレクターしか作れない素晴らしい番組だと思った。検討課題である「想定業種に対してのマッチング評価」については、正直に言うと分からない。BGMを選曲する際は店のオーナーの意向に沿って選曲すると思うが、お客様もリスナーである為、BGM のターゲットをオーナーにするか、お客様にするかは店によって異なる。理美容でも床屋と美容院では全く異なり、美容院でも立地によって違ってくるだろう。番組の内容評価よりも演出ワード/想定業種に対してのマッチング評価の方が評価の基準が分かりやすいと思うので、基本的にはターゲットを明確に設定した上でマーケティングを行い、それに合わせた選曲を行った方が効率は良いのではないかと思う。その際、日本音楽知覚認知学会で学会賞を受賞した昭和女子大学との共同研究は役に立つのではないか。これは「C-06 Colorful Pop Styling」にも言える事だ。

「C-03 SOFT ROCK」が番組名で敬遠されてしまいそうなのに対し、「C-06 Colorful Pop Styling」は番組名からも新しい雰囲気が感じ取れ、どのような音楽だろうと聴いてみようという意識になった。こちらも聴いていくと好みの曲も有ったので、リスナーとしては良い曲がピックアップ出来ていると思った。

つまり、2 番組とも番組としては面白いと思ったが、想定業種に対してのマッチング評価は一概には言えない。

【審議委員】

私は今回の対象番組を聴き、まず何よりも「選曲のプロは居るのだ」と感じさせられたので、担当ディレクターに敬意を払いたい。特に、「C-06 Colorful Pop Styling」では知っているアーティストの曲が一切流れず、それぞれ調べながら聴いた。まさに「スタイリング」で、世界中の正体不明の新しい曲が「カラフル・ポップ」の世界観で集められているネオ・ワールド・ミュージックだと思った。LGBT のように言おうか、垣根の無い世界のハッピー・ミュージック、カラフル・ミュージックであり、

私は頼まれても出来ない選曲だと思った。想定業種に対してのマッチング評価が検討課題として有るが、この番組を聴いて店に合うと思った方が選んでくれたらそれで良いと思う。番組名が「Colorful Pop Styling」で良いのかという事も有ると思うが、これ以外どのようなネーミングをしたら良いか分からない。先程も言った通り、ある種のワールド・ミュージックだと思うので、そのような意味でカフェでも小売りでも美容院でも雰囲気によっては合うだろう。大変面白い番組だった。

もう一方の「C-03 SOFT ROCK」だが、SOFT ROCK はアメリカで 1960 年代後半～1970 年代前半の短い期間でしかなかった音楽だ。ヒット曲や現在に至るまで活動しているアーティストの曲も流れたが、何処で見つけてきたか分からない、驚くような曲が流れた。Miss Abrams And The Strawberry Point 4th Grade Class や Roger Nichols & The Small Circle Of Friends、The Holy Mackerel 等、そのアーティストが出した唯一のアルバムからの 1 曲や、Margo Guryan というシンガーソングライターが出したアルバムの内、唯一のポップアルバムからの 1 曲等だ。このような曲を有名な SOFT ROCK の楽曲の間に入れて、これだけバランスを崩さず番組を作ったというのは本当に凄い事だと思う。「C-06 Colorful Pop Styling」もだが、「C-03 SOFT ROCK」も我々が頼まれても出来ない選曲だ。

【放送局】

ディレクターはどのようにして楽曲を集めているのか。

【放送局】

DJや音楽評論家等の様々な書籍を読んだり、インターネットで調べたりして既に SOFT ROCK として語られている様々な音楽をリサーチして集めて、私が聴いて良いと思った曲を選曲している。正直に申し上げると、私がたまたま見つけて拾い上げられたカテゴリ違いの楽曲は恐らく多くは無く、私一人の感性やリサーチ能力では恐らく辿り着けない選曲だ。

【審議委員】

「C-03 SOFT ROCK」は非常に面白い選曲であり、そのような意味では何処でこの番組を流せばどのように誰が満足するかという事までは分からないが、「SOFT ROCK」という番組名は少し違うと思う。先程も言ったようにお客様はロックの番組なのかと迷ってしまうだろう。実際、これはロックではなくポップスだったので、当時海外ではサンシャイン・ポップという呼ばれ方もしたので、それをまた引っ張り出してきて良いかもしれないし、そうすると古すぎるかもしれないし、その点は今一度考え直してもらおうと思う。「C-06 Colorful Pop Styling」は先程言った通り非常に無国籍で、音楽的なこだわりを持って聴くのは全く違うテイストなのでこのままで良いと思うし、「C-03 SOFT ROCK」も例えば「Sunshine Pop Styling」といった双子のような名前の付け方をしている、お客様が選んで下さればそれはそれで良い、面白い選曲だったのではないかと思った。

【放送局】

非常に有意義なご意見を頂いた。今回は職人技という言葉も使って頂きながら、両番組とも番組としては非常に良かったとお褒め頂いたと認識している。その一方で、BGMとしてモノトーンな選曲と一捻りした選曲とどちらが良いのかについては、聴かれる方の好みも有るので一概に正解は無いと思いつつもやはり番組毎、或いは使っている楽曲、題材毎に考えた方が良く改めて思った。同時に、特に今回のようなコンセプトが明確で選曲にこだわった番組であればある程、当然ながら選曲の選択肢は広くないので、その中でどのように緩急を付けていくかというのは非常に重要だ。

また、今期は番組の選曲内容に加え、時間帯や演出ワード、想定業種とのマッチングも審議頂く内容として提示しており、その点についても貴重なご意見を頂いたと思う。今回、理美容については理容と美容は分けるべきといったご意見を頂

いたりしたが、我々の想定業種の分類が漠然としているのでここは今後留意したい。また、オーナーをターゲットにしているのか、お客様をターゲットにしているのか、それによって聴く BGM が変わるというのも当たり前の事なので、皆様のイメージのしやすさや、審議のしやすさ等も考慮し、そういった設定をもう少し細やかに、具体的にした方が良いと感じた。質問になるが、「C-06 Colorful Pop Styling」を物足りなく感じるというご意見を頂いたが、それは選曲の括り方が悪いからではなく同じようなトーンの曲が続くからという事だろうか。

【審議委員】

ディレクターに「C-06 Colorful Pop Styling」の選曲をするにあたってはどのように曲を探しているのか、そしてディレクター自身はこの番組が好きなのかを聞きたい。

【放送局】

まず、どのように曲を探しているのかについてだが、基本的には調べて探している。インディー・ポップ・バンドというカテゴリが有るとしたら、北欧や UK、アメリカ等様々な所から出ているがそのようなバンドの曲を一気に集めて、チャンネルに合う曲だけを抽出して選曲している。インディー・ポップのカテゴリのリリースにはアンテナを張り、ガイドブックやデジタル音源を購入する海外のサイト等の情報をいつもチェックしている。次に、この番組が好きかについてだが、10 年程この番組を担当しているが数年前の方が好きだった。今も基本的には嫌いではないが、個人的にはブラックミュージックやソウルの方が好きだ。

【審議委員】

番組サンプルではフォークやブラックミュージックのような曲も流れて、統一感という意味では広がり過ぎているとも思ったが、逆にとても魅力的に感じた。だがチューナーでずっと流していると段々退屈してしまった。それは、ディレクター自身が面白い曲を探そうと思って選曲している訳ではないからではないかと思っている。

【審議委員】

このような事を言うのは悪いが、音楽そのものにコクが無い。恐らくこだわりが無いのだろうと思う。

【審議委員】

2, 3 曲聴くにはインパクトが有って良いが、ずっと聴いていると物足りなく感じてしまったので、コクやスパイスになるような一捻りした選曲をもう少し入れると良い。

【放送局】

先程の質問でお聞きしたかったのはまさにその事だ。どちらが間違い、どちらが悪いという事ではないが、無味無臭にするのが BGM だという考え方が有る一方で、一捻りした選曲をするのが BGM だという考え方も有ると思う。そもそも今回の 2 番組が良い番組だというベースが有ったから、このような深い話をさせて頂けたのだと思うし、それは有難い。本来音楽好きな我々が作る BGM なので、無味無臭にはしたくないが、捻り過ぎても駄目というジレンマが有るので、今後もこういった話を是非審議出来たら良いと思い、改めてお聞きした。また、表面的な事で言うと、「C-03 SOFT ROCK」の「ROCK」という言葉は日本人にはロック=激しいという先入観を持たれてしまうのであればそれは不本意なので、その点も考えていきたい。

本日は表面的な事に留まらず、本質的な事にまで非常に有意義で貴重なお意見が聞けたと思う。今後の番組作りに活かしていきたい。